

北海道の道路緑化に対する意識調査から見える現状の課題について



沿道の緑の課題

街路樹に代表される道路の緑は、沿道環境や景観の向上を始め多くの役割を担っています。しかし、道路緑化に関しては種々の問題を抱えており、特に植栽の維持管理については課題が多い現状にあります。

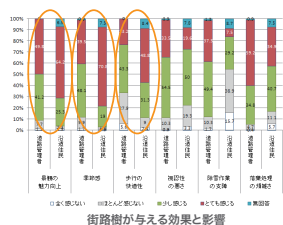
代表的な事例：植栽の無い植樹柵 / 過度に剪定された街路樹 / 下草が放置された植樹柵 / 歩道改修工事などによる既設植樹柵の撤去

アンケート調査

街路樹の維持管理のあり方や住民参加型管理への転換を図る上で、必要となる基礎的な知見を得るために、沿道住民、および道路管理者双方の視点から調査を実施しました(実施時期 2009 年 2 月)。

街路樹が与える影響

- 沿道住民は、道路管理者よりも「景観の魅力の向上」「季節感」「歩行の快適さ」の効果を強く感じています。
- 道路管理者は、「視認性の悪さ」「除雪作業の支障」「落葉処理の煩雑さ」など維持管理面を意識しています。
- また、「落葉処理の煩雑さ」については沿道住民も少なからず負担を感じているようです。



街路樹の過度な剪定について

道路管理者は、「過度のせん定は避けた方がよい」との意識がある一方、約半数は「沿道の住民の要望であればしかたがない」と考えています。また、「電線などに触れると危険なので必要」など管理面からやむを得ないとしています。しかし、占用者による鞘管設置で対応できる場合もあります。

鞘管などの設置でせん定量を減らすことも可能!

一方住民は、「経費節減のためには過度な剪定も仕方ない」とする回答者もいましたが、自然樹形を活かした最小限のせん定は街路樹の機能を損わず、また費用も小さいとの報告もあります。(参考文献：国総研資料)

自然樹形を活かすことにより経費節減や

住民の理解と協力および道路管理者の適切な対応で、より効果的・効率的な剪定へ。

緑化機能の向上が期待

植樹柵と街路樹の維持管理作業への住民参加の必要性

- どの年代でも約 90% の住民が維持管理への参加の必要性を感じています。

道路管理者は、草花の植栽や日常的な水やり、ゴミ拾いなど植樹柵の管理は住民主体が望ましく、街路樹の剪定など危険を伴う作業は、行政主体が望ましいと考えています。

落葉の処理は誰が…?

落葉の処理について、沿道住民は、半数以上が住民主体を支持しています。一方、道路管理者は意見が割れています。

回答者の維持管理作業への参加意向

- 全体の 8 割に参加希望がありますが、年代が上がるにつれ体力的に無理との方が増えています。
- 30 歳代の約 6 割、および 40 ~ 50 歳代の 3 割が、時間的に余裕が無く参加できないと回答しています。

高齢者には身体に負担の掛からない作業内容、勤務者には短時間や日時を限定しないなど気軽に参加できる制度が必要です。

住民参加を進めるためには…

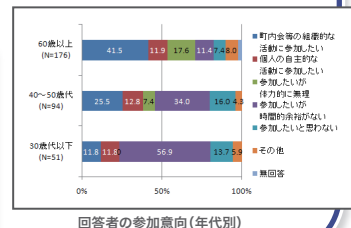
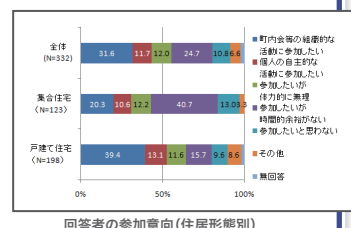
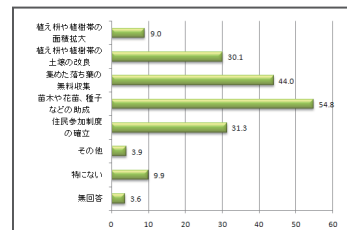
- 住居形態別では、戸建て住宅の住民の約半数に積極的な参加の意思があります。

戸建て住宅地域では、町内会等での組織的な活動が望まれています。

住民参加を推進する上で必要な条件

沿道住民は、苗や種子などの助成、落葉の無料回収、住民参加制度の確立など行政の支援が必要と回答しています。

行政の支援を要望!



『魅力ある街の1位は、街路樹や公園・自然など緑の多い街』 ITC 研究会 2002 アンケート調査結果より

良好な沿道の緑を保つには、道路管理者の正しい認識や知識を高めるとともに、地域住民の落葉処理等への理解や協力、地域全体としての緑化への取り組み体制づくりやそのサポートなどが必要とされます。また道路管理の担当者が一部の住民の苦情を必要以上に恐れ、地域の意向に反した不適切な管理へと向かわないようにサポートする体制の確立も重要です。